# 実りある「就活」のために

## 就職特集

希望の就職をかなえよう

7～10面

## まず明確な目標を

### 「誇れるもの」身につけよう

昨年から企業の採用広報活動の開始が10月1日から12月1日へと2カ月後ろ倒しになった。一方で、採用に直結する面接や筆記試験などの選考活動は、年明けの4月からに据え置かれているため、就職活動のスケジュールは過密になっている。また、企業の「厳選採用」も定着している。そんな中で、納得のいく就職活動を進め、希望の仕事を得るために、日ごろから何を心がけたらよいのか――。本特集では就職活動の実践力を養い、個々の能力を発揮できる仕事に就くために、就職力アップをめざす「支援プログラム」やキャリアデザインセンターの取り組み、育友会就職懇談会の模様を紹介。さらに、内定を得た4年次生の「就活体験記」で、目標を明確に持ち、多くの人とかかわり、学生生活を充実させることで自分だけの「誇れる何か」を得た学生たちの姿を知っていただく。

また、2012年3月卒業者の就職状況を掲載する。

4年次生の採用活動はまだ終わっていない。4年次生対象の「学内企業説明会」、「就活パワーアップ講座」の様子も紹介する。

▲　就職課スタッフによる手厚いサポート個別就職相談＝生田キャンパスで

▲　先輩たちの話を聞く学内ＯＢ・ＯＧ訪問＝昨年11月、神田キャンパスで

▲　総合就職合宿研修会＝昨年12月、日本青年館で

## 「自分の姿」探る各種プログラム

### キャリアデザインセンターが展開

キャリアデザインセンターでは、学生が1年次から将来の生き方について目的意識をもち、希望の進路を探せるよう、さまざまなプログラムを用意している。

スムーズな学生生活への導入を目的とした「キャリアガイダンス講座」、社会の第一線で活躍する講師による「実務家講座」、本学独自の実践プログラム「課題解決型インターンシップ」などを展開、個別の悩みに対応するための「キャリアカウンセリング」も行っている。キャリアデザインとは、自分の個性や資質、価値観を把握し、生き方、働き方を明確にし「自分の姿」をつくり上げていくこと。

小林隆キャリアデザインセンター長（ネットワーク情報学部教授）は「キャリア形成について考えるのは、早い方がいい。学生生活の中で、社会と触れ合う機会を持つことで、刺激を受け働くイメージが固まっていく」と語る。

### 人気の「課題解決型インターンシップ」

### 企業や商店街に学生が独自提案

「課題解決型インターンシップ」は、地域の企業や団体、商店街が抱えている課題に学生が主体的に取り組み、解決策を提案する、長期プログラム。

仲間と協力し地域社会に接する中で、スケジュールを管理する力、コミュニケーション力、企画力、プレゼンテーション力などが身につく。

今年度は個人参加、ゼミ参加あわせて26プログラム（約300人）が活動中だ。

▲　学生が企画・運営した藤子・F・不二雄ミュージアムのプレイベント＝昨年度のプログラム

## キャリアデザインの全体像学ぶ

### 新入生のためにガイダンス講座を開催

キャリアガイダンス講座は、キャリアデザインの全体像を知ることで、1年次から将来の生き方について目的意識をもたせることを目的としている。今年度は、4月から7月にかけ、6学部で約50回実施した。

▶　講座を通し、キャリアデザインの大切さを学ぶ

講座では、キャリアデザインとは何かについて説明を受けた後、現在の目標や課題、これまでを振り返って気づいた自分の価値観や性格などをワークシートに書き出し、二人一組で発表とフィードバックを交互に行うペアワークに挑戦。自分の意見を簡潔に表現するコツや客観的な感想を相手に伝える難しさを体感することで、キャリアデザインの重要な要素となる自己理解の手法を学ぶ。

▶　ペアワークにより自己理解を深める

また、今年度からキャリアノートが従来の冊子版からパソコンや携帯電話で利用できる「Webキャリアノート」に変わったことを受け、その具体的な使用法も紹介。日々の気づきや経験を書き入れるノートとしての役割はそのままに、センターが提供する講座やカウンセリングの申し込みもWebから簡単にできるようになった。さらに、毎年、先輩たちが体験談を披露。より具体的に学生生活をイメージできる機会となっている。

## 最前線の実務家が指導

### 「起業プラン作成体験」

実務家講座は、ビジネスの最前線で活躍する実務家から直接指導を受けることで、社会に触れる貴重な機会が得られる。

5～7月の毎週火曜日、全7回にわたって開講された「起業プラン作成体験」では、起業のノウハウを学ぶだけでなく、グループワークを通じて、コミュニケーション能力やプレゼンテーションのコツを体得できるのが特徴だ。学年学部を問わず参加でき、10月開催のベンチャービジネスコンテストへ向けての入門講座となっている。

講師は、年間相談数が500件を超える人気起業コンサルタントである㈱OCL代表取締役の四ッ柳茂樹氏が務めた。

6月26日に行われた第5回講座「事業計画書を書く」では、事業領域の決め方やターゲットユーザーの絞り方などを具体的に学びながら簡易事業計画書に実際に記入していくワークに11人が参加。全員がアイデアを出し合い、活発な意見を交わした。

参加した山賀美裕さん（商2）は「昨年インターンシップに参加して起業に興味を持ち、受講を決めました。講義を通して、いつも何気なく見ているものに起業のアイデアが隠れていることが分かり、いままでリアリティーのなかった起業が身近に感じられるようになりました。メールでの質問に対する先生のリアクションは驚くほど早く、とてもていねいに指導してくださっています。ベンチャービジネスコンテストにもチャレンジしたいと思っています」と意欲を見せた。

▲　参加者同士が意見を交わしながら起業プランを練っていく（左端が四ッ柳氏）